



カーライフをサポートする会社の信頼感を 上質な日野デュトロハイブリッドが高めている。

「救援要請の電話に即対応できるように
24時間365日、常に出動できる体制を取っています。」——明石社長談

「東名高速からの救援要請だけで、月に100件ほどあり、毎日フル回転です。今年の2月は、雪が多く特に大変でした。電話は鳴りっぱなし。休日の社員も出社して対応したのですが追いつかず大変でした。」と、目が回る忙しさをご紹介くださったのは、横浜市青葉区の有限会社 青葉ロードサービスの代表取締役 明石賢二様である。(以下、同社、社長)同社の本社は、交通量の多い国道246や東名高速に近く、月に1,000~1,300件の出動依頼があるそうだ。救援車両は15台あり、レッカー車は13台。その内7台は、フラトップ仕様である。右ページの写真のように、荷台部分が後方に降りて水平になるので、作業性が良く1人でもスムーズに車両の積載ができる。

2011年、横浜日野自動車の営業担当者から日野デュトロハイブリッド発売を聞いた社長は、2台のフラトップ仕様の発注を

決めた。以前から増車を考えており企業PRになると判断したからである。当初、架装の可否が判明しなかったが日野デュトロハイブリッドのフラトップ仕様第1号車は、12月に無事完成。この車両は、190社が加盟する全日本高速道路レッカー事業協同組合の全国大会に展示されることになり、大いに話題になった。社長によると**燃費は、同クラスのディーゼル車より1~2km/Lほど良く、経費節減に貢献している**そうだ。車の故障や事故で困っている人を助ける仕事柄、同社の営業は、年中無休。そして現場では緊張感を和らげる笑顔と、ていねいな対応が求められる。そのため社長は、スタッフが気持ちよく仕事できるように装備の充実した車両の導入を心がけている。その点、**日野デュトロハイブリッドは、静かで快適な運転環境の実現に大いに貢献している**そうだ。



注目度抜群の日野デュトロハイブリッドは、ワイド幅キャブのハイグレード3.5トン積み。



駐車場の左側に事務所とドライバーの皆さんが、出動待機中に装備品の手入れなどをする休憩スペースがある。



フラトップと呼ばれる車両積載車の後部。荷台は連動PTOにより、リモコン操作できる。



スピーディで極めて滑らかなフラトップの展開状況。



女性スタッフが電話対応に忙しい事務所の様子。GPS搭載の作業車の現在地は、事務所のモニターで確認できる。



取材日のハイブリッド車のドライバー、萩原健太様。救援依頼者をホッとさせる笑顔が心がけている。



制服姿が頼もしい待機中のドライバーの集合写真。左から倉田義規様、白石雅之様、小島 功様、藤城久雄様、明石社長、今野雄大様、萩原健太様、田邊隆文様、神田圭史様。



横浜日野自動車 港北支店
から
川辺良士さん
お客様を担当して1年になります。毎月の訪問の他、電話の機敏な対応を心掛けています。現在、小型2台、大型1台の発注をいただいております。納車を楽しみです。

有限会社 青葉ロードサービス

住所:〒227-0041 神奈川県横浜市青葉区上谷本町82-1
TEL:045-974-2007
代表者:代表取締役 明石賢二
創業:1991(平成3)年4月
従業員数:18人 ハイブリッド車保有台数:2台
<http://aobaroad.com>



本社と町田営業所の救援エリアや営業所増設の意欲をお話くださった
代表取締役
明石賢二様